

1 単元名 近現代の日本と世界

「第一次世界大戦と日本 ～全国水平社・西光万吉～」(全7時間)

笠松町立笠松中学校 北村昌弘

2 単元のねらい

第一次世界大戦開戦前後から戦後の国際協調が進む時期の我が国の動きと世界の動きのあらましを理解するとともに、民族運動の高まり、国際平和への努力、我が国の国民の政治的自覚の高まりに気付くことができる。
被差別部落出身者である西光万吉の、自分への差別の恐怖を乗り越え、人々の生活や権利の向上を求めて人権尊重の立場から全国水平社を立ち上げていった姿にみられる「共に生きる」生き方に共感できる。

3 単元で培いたい学び方

第一次世界大戦と日本に関わる社会的事象についての自分の思いを適切に表現し、歴史上の人物の活動した時代背景と地域とを関連させながら、その果たした役割や生き方を具体的に理解する学び方。

4 内容のまとめりごとの評価規準 歴史的分野の内容(5) 「近現代の日本と世界」

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理解
我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きに対する関心を高め、意欲的に追究し、国際協調の精神を養い国民としての自覚をもとうとする。	我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きから課題を見いだし、歴史の流れと時代の特徴を多面的・多角的に考察し、公正に判断している。	我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きに関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きを理解し、その知識を身につけている。

5 単元の評価規準

	ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理解
単元の評価規準	第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましとこの時期の我が国の国民の政治的自覚の高まりに対する関心を高め、意欲的に追究している。	第一次世界大戦の背景や戦後の国際協調の動き、政党政治の発達、社会運動の展開などを通して、第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましと我が国の国民の政治的自覚の高まりを多面的・多角的に考察し、公正に判断している。	第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましとこの時期の我が国の国民の政治的自覚の高まりに関する文献、映像、統計・グラフなどの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	第一次世界大戦前後の我が国の動きと世界の動きのあらましを理解するとともに、この時期の我が国の国民の政治的自覚の高まりに気づき、その知識を身につけている。
学習活動における具体の評価規準	民衆が立ち上がった社会運動について、関心を高めようとしている。 全国水平社を立ち上げた西光万吉の生き方や考え方について関心を高めようとしている。 全国水平社を立ち上げた西光の「共に生きる」という生き方に共感している。	アジアの民族運動について、民衆の立場から考えをまとめている。 仲間との交流を通して、社会運動の動きについての自分の考えを深めている。 仲間との交流を通して西光の願いについての自分の考えを深めている。 大正時代、民衆が立ち上がった理由について、多面的・多角的に考えている。	大正時代の様子について年表資料から読み取っている。 第一次世界大戦の原因や様子を資料から読み取っている。 第一次世界大戦後の世界の動きを資料から読み取っている。 大正時代の市民生活や文化の変化を資料から読み取っている。	ロシア革命の流れやその後の世界の動きについて、その知識を身につけている。 社会運動の動きについて、その知識を身につけている。 国民の政治的自覚の高まりについて、その知識を身につけている。

